

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	16-051	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The Race-Specific Incidence of Esophageal Squamous Cell Carcinoma in Individuals With Exposure to Tobacco and Alcohol.</p> <p>飲酒、喫煙状況を考慮した人種ごとの食道扁平上皮がん発症率</p>		
執筆者		
Prabhu A, Obi K, Lieberman D, Rubenstein JH.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2016 Dec;111(12):1718-1725. doi: 10.1038/ajg.2016.346.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、人種、食道扁平上皮がん、食道腺がん		27575710
要 旨		
<p>目的： 食道扁平上皮がん(ESCC)の発症率を、人種、年齢、性別、飲酒歴、喫煙歴の特徴を考慮して推定し、胃食道逆流症状のある白人男性における食道腺がん(EAC)の発症率との比較を行う。</p> <p>方法： 人種、性別ごとの飲酒歴、喫煙歴については、米国疾病予防管理センターによる縦断調査であり、約 87,500 人の米国人を対象とした National Health Interview Survey の情報を用いた。飲酒歴ありは生涯飲酒量 12 ドリンク以上、喫煙歴ありは生涯喫煙量 100 本以上の者と定義した。喫煙者、飲酒者における ESCC の標準化罹患比はメタアナリシスから推定した。米国での ESCC の発症については Surveillance, Epidemiology, and End Results(SEER)プログラムから情報を得た。ESCC の発症率の推定には Markov モデルを用いた。</p> <p>結果： ESCC の発症率は、ヒスパニック系白人、非ヒスパニック系白人、アジア系米国人と比較して、アフリカ系米国人で最も多かった。飲酒および喫煙歴のあるアフリカ系米国人での ESCC 発症率は、60 歳で 30/100,000 人年であり、同年齢の胃食道逆流症状のある非ヒスパニック系白人男性における EAC の発症率(40/100,000 人年)に近い値であった。</p> <p>結論： ESCC の発症率は、喫煙・飲酒歴のあるアフリカ系米国人男性において最も高く、胃食道逆流症状のある白人男性における EAC の発症率に迫る頻度であった。ESCC の予防および早期発見のための対策が望まれる。</p>		